

あるある研修 「ねえ、開いたよ！」

■ 主な内容

- ・ 運動会に向けて練習を頑張っていた6月
- ・ 当日、晴れるようにと紅組と白組で1つずつ大きなたてる坊主を作ることになる。
- ・ 何を使って作るのか、各チームで話し合っ材料を決め、必要な物を事務室からもらってきて作り始めた。

■ 幼児と保育者のようす

(ビニール袋の中に丸めた新聞紙を入れたい様子)

(しかし、ビニール袋の上に丸めた新聞紙を置いている状況)

A 児：「どうやってすればいいの？」

B 児：「えーわかんない。」

(しばらく同じ会話が続くが、解決できずに困っている。)

保育者：「運動会の衣装を作ったときにビニール袋を使ったよね」

(保育者の声が聞こえていないのか、二人はうわの空)

A 児：「あれ？あれ？」

(しばらくの間、困っていたが…。)

(A児が触れていた側のビニールの口が偶然開く)

A 児：「あっ！ねえ、開いたよ」

B 児：「あー」

(2人は喜んで、新聞紙をビニールに入れて、たてる坊主づくりの続きをする。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 保育者がおこなった声掛けには、どのような意図があったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 製作をしているときに、幼児が困り悩んだ場合に、どのような援助が考えられますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ねえ、開いたよ！」

■ この園での取組

- これまでにも衣装作りや大きな製作の経験があり、年齢が低いときには保育者が補助しながら、材料を考えて作っていた。年長児になって、材料を自分たちで考えて探すことにしている。
- ビニール袋という素材は、今までも使ったことがあるので、自分たちで解決してほしいという願いから、保育者は声掛けを行った。
- 保育者の声が耳に入っていない様子だったが、自分たちで考えていたので、再度、声掛けせずに任せることにした。
- 偶然ではあったが、ビニール袋の口が開いたことを友達と喜び合う姿が見られた。

■ ワンポイント

- ビニール袋の口が開くということを教えるのは簡単だが、小さな事でも自分たちで考えて、解決するという経験の積み重ねを大切にしている。
- どうしたらいいのかな？と考え悩むことが思考力の芽生えにつながる。また、やってみたら出来たという経験が次の活動に活かされていく。

あるある研修 「全部食べるよ」

■ 主な内容

- ・ 7月～8月上旬、T児は、1、2歳児クラスの頃から給食が進まない3歳児。
- ・ 偏食で、食に対する興味が薄く、食事中も集中力が散漫になっている。
- ・ 食べたくないものがあると、お皿ごとテーブルにひっくり返していた。
- ・ 家庭でも同様にしているとのことで、保護者と話し合い、園でも家庭でも食事の無理強いはしないが、お皿のひっくり返しはやめるよう指導した。
- ・ 3歳児に進級したころは、お皿のひっくり返しはなくなったものの、規定量の食事は食べきれなかったため、あらかじめ量を減らしていた。減らした量で完食できると、たくさん誉められ、喜びを感じていた。
- ・ 今年度は、園全体でSDGsについて、園児の発達段階に合わせて、理解しやすいように触れており、特に「食品ロス」はもったいない、ということにとっても関心を持っている。
- ・ 家庭では食べないメニューも、毎日の給食で馴染みはじめ、少しずつ食べてみようという気持ちが高まってきた。

■ 幼児と保育者のようす

(T児が苦手なおかずがメニューにある日。なかなか手を付けずにいる)

担 任：「Tちゃん、このおかず、ちょっと苦手？」

T 児：黙ってうなづく

(保育士は目の前で、半分にして、「どっちを食べる？」Tちゃんに食べきれそうな方を選ばせる。)

(Tちゃんも、自分で選んだ方なら食べきれそうと口にする。)

担 任：「Tちゃん、すごいね！小さい時は食べられなかった物も、大きくなったら食べられるようになったんだね、偉いね！」

T 児：「うん、Tは、お姉ちゃんになったからね。ごはん残したら、もったいないばあさん来るよね」

(このようなやりとりを繰り返し、量や苦手な物を減らしてでも完食できたこと、保護者にもしっかり食べていることを伝え、家庭でも褒められることで、食べる事への意欲が高まっていった。)

(ある日、他のクラスの保育者が給食時間に入ってきて、)

保育者：「もも組さん、みんなもりもり、いっぱい食べて、すごいね。

Tちゃんもいっぱい食べているね、なんだか朝より大きくなったみたい」

T 児：「Tね、もう（給食）減らさないで食べられるよ、先生見てて」（誉められて満足そうなTちゃん。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 楽しく、喜んで食事が出来るように、どのような配慮や工夫をしていますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 食事は、特に家庭との連携も大切と考えられます。家庭での食生活を広げる援助として、園でできる工夫を考えて見ましょう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「全部食べるよ」

■ この園での取組

- T児は未満児の頃から偏食が強く、生活表からも、ご家庭での食事のバリエーション（特に和食）が少ないことが伺われていた。
- 保育者は、美味しく食べて欲しいと、なるべく体をたっぷり動かして遊ぶよう活動した。また、みんなで食事すると、美味しい、楽しい、嬉しい、と感じ、給食の時間が喜びの時間となって欲しい。ただし、感染症防止対策中のため、なるべく黙食を心がける配慮から、音楽やお話のCDをかけている。
- 1か月オリジナル献立の完全給食の園であるため、食材、調理法などは幅広い。新型コロナ感染症防止前は、給食参観を設け、保護者にも試食する機会を作っていた。
- キリスト教保育の観点から、自然、作物、全ての動植物や環境を大切にすることを念頭においていたが、特に今年はSDGsの絵本や話を通して食べ物を残すことは「もったいない」という事を知り、意識するようになっていた。
- 偏食はなくして欲しいが、食べきれる量に個人差はあるため、あらかじめ量を少し減らして提供し、完食した時はおおいに誉め、喜びと自信につなげていった。

■ ワンポイント

- 集団生活において、落ち着いて食事できる環境や、食事が喜び楽しみになるには、どのような工夫ができるか考えてみましょう。
- 園として、家庭での食生活や食育の手伝いとして、どのようなことができるか、アイデアを出し合ってみましょう。

あるある研修 「せんせい、おみやげだよ」

■ 主な内容

- ・畑の大根が育ち、収穫の時期になった。
- ・クラスみんなで大根を抜きに行く。
- ・普段、クラスで移動する時に遅れがちになってしまうK児。
- ・保育室に大根を持ち帰るとき、みんなと離れてしまう。
- ・保育者が声がけをするが中々動き出さず・・・。
- ・クラスの子が、だいぶん先に行ってしまうと
- ・「みんな遠くに行っちゃった」と泣き出す。
- ・追いつくから行こうと声を掛けても泣くばかり。
- ・なんとか園庭の途中まで来たら

■ 幼児と保育者のようす

(畑から大根を抜いて、保育者のところに持ってくる)

保育者A：「大きい大根だね～」

K 児：「まま、喜ぶな～」(嬉しそうに大根を抱きかかえている)

保育者A：「順番に新聞で包むから待っていてね」
(全員包み終わるのを待っている)

(クラスの担任がみんなに声を掛ける)

保育者B：「みんな包み終わったから、お部屋に戻ろうね。」
(K児の横にいた保育者A)

保育者A：「K君、大根重いけど、持てるかな。さあ行こう」
(声を掛けたが、立ち上がる様子はなく、座ったまま)

保育者A：「大根重たい？大丈夫？」

K 児：「もうあんな遠くに行っちゃった」
(クラスの子が歩き出ししばらくすると、急に泣き出す)

保育者A：「大丈夫、追いつくよ」
(声がけには応じず、ポロポロと涙を流し泣き続ける)

(抱きかかえるようになんとか玄関の近くまで来たが泣き止まない)

保育者A：「あれ？緑の葉の中に赤いのが見える！」
(目線の先に見えたおんこの実がとても赤くてきれいだったので)

K 児：「んっ！何？何が見えるの？」
(ぴたりと泣き止め、興味津々で探し出す)

K 児：「つぶすとべたべたするんだよ。ちよつとつぶしてみよう」

保育者A：「よく知っているね。その実B先生にお土産にあげたらどうかな」
(地面に落ちていた、どんぐりの帽子を見つけ、その中に実を入れる)

(ちょうどいいタイミングで、B先生が玄関から出てくる)

K 児：「先生～おみやげだよー」

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ 子どもの気持ちを切り替えるには、どんな言葉がけがあるでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 集団行動が苦手だったり、自分から外れてしまったりする子に関わるとき、配慮していることは何ですか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「せんせい、おみやげだよ」

■ この園での取組

- 園は団体で行動する場面が多いが、みんなと同じペースで行動することが苦手な子や、「みんなで遊ぶ」というのが好きではない子もいる（ふれあい遊び・集団遊びなど）。
- K児は、日ごろから生活リズムが不規則なため、睡眠不足のことが多く朝から機嫌が悪いこともある。職員で情報を共有し、その日の体調や様子を把握するようにしている。
- クラスにいる時も、みんなと同じタイミングで移動しないことが多く、援助する先生が声がけをして寄り添うようにしている。
- 好奇心旺盛で、楽しい事が大好きなK児。体調が良好な時は、自分から進んで興味のあることに向かっていくため、気持ちをうまく切り替えられるよう、よく見ないと気がつかない木の実があることを伝えた。
- 担任の先生に「おみやげだよ」と言いながら自ら渡しに行った後は、K児が捕まえたとんぼを見にそばに来た友だちと一緒に園庭で遊んでいた。園庭からの帰りは、笑顔一杯でみんなと一緒に保育室まで帰って行った。
- 団体行動の中でも、子どもの主体性を大切にしておあげられること、ひとりひとりの子どもの気持ちに寄り添えるように全職員心掛けている。

■ ワンポイント

- 生活が不規則になりがちな子どもの対応について、保護者とのような共通理解があるとよいか考えてみましょう。
- 子どもが、自らみんなのところへ入って行けるために、職員がどのような工夫ができるか考えてみましょう

あるある研修 「みんなと一緒にほきどきしちゃう…」

■ 主な内容

- ・環境に慣れるのに時間がかかってしまう、年少組のT児
- ・集団遊びなどでは、輪の中に入ることができず、部屋の隅で座り込んでしまうことが多い。
- ・自由遊びでも友達の様子を見ながら、一人遊びが多い。
- ・家では、園の出来事などをたくさん話すことができる。
- ・本当はクラスの友達とも遊びたいと思っているが、どう話しかけたらよいのか分からずにいる。

■ 幼児と保育者のようす

(周りの様子をじいっとうかがうT児)

保育者：「こっちにおいで、みんなと遊ぶと楽しいよ」

T 児：「…。」(無言で近付いてくる。)

保育者：「一緒に高く積み上げてみようよ」

「はい、次はTちゃんの番」

T 児：「…。」(無言で重ねていく。)

保育者：「Tちゃん、乗せるの上手だね。」

B 児：「いーれーてー」

保育者：「Tちゃんも一緒に言おう。いいよー」

T 児：「…。」

保育者：「次はBちゃんの番だよ。」

B 児：「できたよ。次はTちゃんの番だね。」

T 児：「…。」(無言で積み上げている。)

B 児：「Tちゃん、上手だね。」

T 児：(進んで積み上げようとする。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ T児はどうして保育者や友達とのコミュニケーションを取ることが苦手だと思いますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ どのような遊びや環境があると、友達の中に入っていくことが出来ると思いますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「みんなと一緒にはどきどきしちゃう…」

■ この園での取組

- 環境への適応は個人差があるので、まずはクラスの担任になれることができるようにコミュニケーション機会を増やす。
- 友達と関わることや、協力することを目的としてグループ活動や当番活動を積極的に行っている。
- T児は、姉が近くにいると自分から喋りだすことも多いので、同じ時間帯で外遊びなどできるように、時間の工夫を行っている。
- 注目を浴びたり、みんなの前で褒められたりすることは好まないなので、部屋の隅で本児だけに聞こえるように頑張ったことや嬉しかったことを伝える。
- 無理強いはしないが、集団遊びは楽しいよということなどをたくさん伝え、興味を示せるようにする。
- うなずきなども意思表示と捉え、簡単に答えられる質問をしながらコミュニケーションを図る。
- 少しでも困ったことを伝えられたときには、「教えてくれたから、助けることができたよ、ありがとう」ということを本児に伝えている。

■ ワンポイント

- 保護者とも情報共有をして、家庭の会話の中で「こうしたい」と思っている本音を聞き出すことや、園でもやってみようと思えるように励ましてもらえるよう協力してもらう。
- 友達から声をかけてもらえるように、間に入りながら遊びを楽しめる環境を作っていけるようにする。
- クラス内の職員でも情報を共有しながら、様々な方面で接していくと、心を開くことにつながるので、できることからやっけていきましょう。

あるある研修 「つまらないからやいたくない…」

■ 主な内容

- ・ 4歳児のTくんは4人兄弟の末っ子
- ・ ブロック遊びや虫探しが大好きで、年上の子に混ざりながらのびのびと遊ぶ姿が見られる。
- ・ クラスでの取組や全体で行う行事には興味を示さず、「面倒くさい、つまらない」といって参加しないことが多い。
- ・ 活動中に保育室から飛び出て、水道で水遊びをすることもある。
- ・ 言葉のやりとりを上手に行うことが出来るが、自分の思いが通らなかったときは衝動的に手が出てしまうことがある。
- ・ 保護者に家庭での様子を聞くと、小学生の兄弟と自由に遊んで過ごすことが多く、家庭でも玄関から飛び出していったことがあるとのこと

■ 幼児と保育者のようす

(朝の自由遊びの時間。子ども達は園庭で好きな遊びを楽しんでいます。Tくんは年長児クラスの友達と虫探しに夢中で、捕まえた虫を保育者に見せるなど、観察をしながらのびのびと遊んでいました。)

(自由遊び終了後、ホールに集まり、年中・年長児が合同で交通安全教室を行いました。みんながホールにイスを並べている中、なかなか保育室から出てこないTくん)

保育者：「Tくんどうしたの？交通安全教室が始まるよ」

T 児：「面倒くさいから行きたくない」

保育者：「そうなのね。園庭でたくさん遊んで、疲れちゃったのかな？先生と一緒に行く？」

(そう言いながら手を差し出すと、Tくんも手を伸ばして一緒にホールに行くことができました。)

(次は、園庭で実際の信号機を見ながら横断歩道を渡る練習です。)

T 児：「絶対つまらないから行きたくない」

(ホールのベンチに寝そべってしまいました。保育者が声を掛けて園庭には連れ出しましたが、活動に参加する様子は見られず、虫探しを始めてしまいました。保育者から参加を促す声掛けをするものの、Tくんは活動に参加しませんでした。)

■ 協議してみましょう

○ Tくんがクラスでの取組や全体での行事に参加をしたがらない理由として考えられるのは何でしょう。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ クラスの取組に消極的な子どもに対し、どのような関わりや工夫をしていますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「つまらないからやいたくない…」

■ この園での取組

- 朝夕の自由遊びの時間は、それぞれが主体的に遊びを展開できるように環境設定をすることで、好きな遊びを楽しめるようにしている。
- T児は、自分の好きな遊びだと集中して楽しむことができるため、集中して遊んでいるときは、その様子を認め、満足感を得られるようにしている。
- T児に限らず、多くの子どもは、見通しが持てないことに対して不安を抱くことがあるため、1日の流れや今日はどんなことをして遊ぶのか、次にする行動を視覚的に伝えている。
- T児は大人とやりとりすることやスキンシップをとることを好む様子があるため、活動に消極的なときは言葉のやりとりやスキンシップをとることで、安心できる環境をつくっている。
- T児には上の兄弟がいることから、普段の遊びも大人びたものを好む傾向がある。決まっている活動へと促すのではなく、T児が興味をもてるような活動や展開を考えて促すようにしている。
- T児の個性を認めながら、無理にクラス活動への参加を促さず、様子を見ながら声を掛けて、少しずつ活動に興味をもてるようにしている。

■ ワンポイント

- 集団での行動や決まりの中で遊ぶことが苦手な子どもに対して、どのような働きかけや工夫が出来るか考える。
- 見通しをもつことが苦手な子に対して、どのような工夫が出来るか考えて見る。
- 職員全体で課題や改善策を共有するためにはどのような方法があるか考えてみる。

あるある研修 「ぼくはシャイなダンサー」

■ 主な内容

- ・おとなしく、消極的で目立たないA児。自分から声を出すことも少ない。年少組の途中で入園してきた。
- ・年長組に姉がいる。登園後は、いつも姉のそばにいる。姉は小学校に行き、一人での登園が始まった。
- ・自分に自信がなく、友達に手伝ってもらうことが多い
- ・人に頼らず、できることは自分で言い、困ったことがあれば自分で言えるようになってほしい。
- ・保育者が「おはよう」と声をかけても受け身で進展しない。
- ・どうしたら声を出せるか、日々、工夫しながら声をかける。

■ 幼児と保育者のようす

(運動会の練習が始まってからのこと。リズム感がよく、覚えるのも早い。遊戯が上手な姿を発見できた。)

保育者：「みんなで踊りを練習しようね」

A 児：(真剣な顔で保育者の動きをじっと見ながら真似をする。
程なく覚えて、リズムよく踊れるようになった。)

保育者：「Aくん、とても上手に踊れるようになったから、みんなの前で踊ってくれるかな。」

A 児：「うん」

保育者：「みんなも上手だけど、Aくんは曲に合わせて上手に踊れるからみんなに見てもらいたいの」

みんな：「いいよ」

A 児：(みんなの前に立ち、踊ってみせる。緊張はなく、笑顔で楽しそうに、自信満々で踊る。)

保育者：「ありがとう。Aくん、とても上手だったよ」

みんな：「うん、上手だった」

A 児：(褒められたうれしさを隠しながら、笑みを浮かべていた。)

(その後、少しずつ自信がついて、ある日の登園後、初めて自分から保育者に「おはよう」と挨拶をした。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ A児が自信を持ってない原因として考えられることは何でしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 家と保育園との姿が違い、自分を出せない子にはどのように関わると自信がもてるようになりますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ぼくはシャイなダンサー」

■ この園での取組

- 挨拶が出来るような保育者からの言葉掛け、困ったことを伝えられるような環境の中で話を聞いている。
- 興味があることは何か、日々の姿から見付けることで誘い出し、自信をつける、自信がつくような状況を設定する。
- 保育者、友達との関わりが「楽しかった」「また、一緒に遊んで、話したい」となる体験を設定する。
- 子どもの力を出せるのは子ども同士と考えるので、関わりを見守ることをしている。
- 「おはよう」は5歳の誕生日に自分から言うと保育者に宣言したので、誕生日を迎える日まで声を掛けながら待っている。

■ ワンポイント

- 発達については、A児の行動を見ていて、遅れを感じる面は見られない。生活や活動など、集団行動は出来ている。
- 職員全体でA児の課題の把握や改善策を共有して、成長を見守り、出来たことを褒めていく。

あるある研修 「ゼリーを食べないSちゃん」

■ 主な内容

- ・ ある月のお誕生会
- ・ いつも皆で食べるスペシャルデザートを食べないSちゃん
- ・ 保育者がどれだけ進めても「食べたくない」と言う
- ・ いままで食べたことがなかったため今回も残すのかなとあきらめかけている保育者
- ・ だんだん食べ終わったほかの子が集まってきた
- ・ 周りの子はどう思い、Sちゃんはどうなったのか

■ 幼児と保育者のようす

(お誕生会後のデザートタイム)

担任「じゃあみんなでおいしいデザートをいただきますよ」

子どもたち「おいしいデザートいただきます」

(ほかの子はどんどん食べ始めているがなかなか手が動かないSちゃん)

保育者「Sちゃん今日はぶどうゼリーだよ。ぶどう好きだったよね？一口どうかな？」

(保育者が何度か口に運ぼうとしてみますが顔を背けてしまいます。)

S「いらない、幼稚園のデザートは食べないの。」

保育者「ペロッってしてみるだけはどうか？」

S「いらない。」

(いらないと言いながらも柔らかい表情をしています。)

(Sが本気で嫌がっていないことに気づきもう一度勧める保育者)

保育者「みんなと食べたら楽しいんじゃないかな～と思うんだけどどうかな？」

S「いらないんだもん！」

(段々食べ終わった子が周りに集まってきています)

K「S どうして食べないの？いつもお弁当のデザートぶどうだから食べたらおいしいよ！」

Y「ぶどうゼリーおいしかったよ！Sはどうしたら食べてくれるかな？」

(いつも保育者や友達に苦手な食べ物を手伝ってもらっているKが思い付き)

K「先生じゃなくてKが食べさせてあげる！先生あっちむいてて！」

(すると小さく一口食べることができたS)

K「やった～！！Sがパクってした！！うれしい！」

M「え！S食べれたの！いままで食べれなかったのに！すごいじゃん！」

(Kが口に運ぶとどんどん食べ進めるS)

k「みんなSがたべてるよ～！」

N「そんなわけないじゃん…ってほんとだ！！」

(みんなにほめられ食べ進めるS。ぶどうゼリーを完食することができました。)

ワークシート

■ 協議してみましょう

○ なかなか食べ始めないSちゃんの心の中はどんな思いがあったのでしょうか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

○ 集団生活で、他の子から離れて過ごしている子がいたとき、どのような働きかけをしていますか。

(個人思考)

(グループ・全体協議)

「ゼリーを食べないSちゃん」

■ この園での取組

- ・誕生会という普段と違った環境下で変化になれない子にとっては戸惑うこともあるのではないかと考える
- ・Sは普段からやりたくない全員での活動を見ていることがあり、集団にすることが苦しくなる場面もあったためどのような際にも無理強いをせず本人のペースで参加できるよう見守っていた。
- ・今回のゼリーはぶどう味でSの好きな食べ物もぶどうだったため嫌いなものではないことがわかっていたことから一口食べてみようとするしてみた。
- ・いつもは苦手なものを保育者や友達に口に運んでもらって食べることができているKが近くに来て声をかけてくれたため保育者は子ども同士の関りでSの気持ちに変化が出るのではと少し離れて様子を見ることにした。
- ・Kの手助けで一口食べることができたS、周りの子が大喜びしSの表情もどんどん明るくなってきたためKや周りの子に安心して任せることができた。
- ・この月はSの好きなものであったからこそのかかわり方であったが毎月違うメニューなためその時々状況を見てその子自身がクラスの空間にいることを楽しく思えるような働きかけを心がけている。

■ ワンポイント

- 集団にすることがつらい子への関わりや周りの子の感じ方についてどのような工夫や意識の持ち方ができるか考えてみる。
- 職員全体で状況を共有し共通意識をもって関わることで、いかなる環境でも子ども達が安心して過ごせるようにするにはどのような心がけが必要か、職員同士で話し合ってみる。